

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 6 月 19 日現在

機関番号：34401

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2012～2016

課題番号：24520034

研究課題名(和文)ギリシア哲学における正義論の理性的、感情・情動的、社会的、また宇宙的基盤

研究課題名(英文) Rational, Emotional, Social and Cosmological bases for the Theory of Justice in Greek Philosophy

研究代表者

金山 万里子 (KANAYAMA, Mariko)

大阪医科大学・ 功労教授

研究者番号：10093189

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,200,000円

研究成果の概要(和文)：ギリシア哲学における正義論の基本は、ソクラテスの徳(正義)の探求とその結果としての刑死、またプラトンによる師の死の意味づけにある。良き行為による幸福の確保を求める人間にとって、欲望とそれに関わる感情が正義追求の大きな阻害要因となるが、ソクラテスは、個々の人間にとっての正義の意味を、理性的、感情的、社会的に意義づけ、またプラトンは、イデア論とそれに基づく宇宙論を基礎として、正義論を一つの哲学体系として確立した。その具体的あり方を、代表者は特にプラトン『クリトン』の議論を通して、分担者は、プラトンの魂論、認識論、イデア論を通して明らかにしようとした。また代表者は『ゴルギアス』翻訳も進めた。

研究成果の概要(英文)：The basics of the theory of justice in Greek philosophy consist in Socrates' pursuit of virtue (justice), his death as its result, and Plato's search for the positive meaning of his master's death. Human beings strive to attain happiness through good actions, but various desires and related emotional disturbances divert them from just actions. Socrates tried to establish rational, emotional, and social meaning that justice has for each person, and Plato put the theory of justice as a whole system of philosophy on a firm footing of his theory of Forms and cosmology. The Principal Investigator tried to clarify Socrates' views through his arguments especially in Plato's Crito, while the Co-Investigator approached Plato's views through his psychology, epistemology and the theory of Forms. At the same time the Principal Investigator has been engaged in translating Plato's Gorgias, and its result is expected to be published in the near future.

研究分野：哲学

キーワード：正義 理性 感情 法 記憶 ソクラテス プラトン ホメロス

### 1. 研究開始当初の背景

現代世界のグローバル化は、利益追求の名のもとに、正義がしばしば等閑に付され、社会的不平等など種々の問題が生じる状況を生み、そのなかで功利主義、義務論、リベリズム、リパタリアニズム、集団主義などさまざまな立場が、それぞれ問題解決に取り組んでいる。この正義論の問題について、本研究では、その源流であるギリシア正義論に、反省的に立ち返り、哲学のみならず、文学、弁論術、歴史、政治、医学をも含む多方面から、かつてギリシア人が彼らの現実のなかで掘り下げていった議論を確認整理し、それぞれの議論の基底に存する理性観、感情・情動観、社会および宇宙における人間存在の位置づけ、また人間相互の共同と競合に関するギリシア哲学者たちの諸思想を研究することを目指した。

すなわち、正義をめぐるのは、社会規範の自然性と人為性、義務と利益、理性と感情、徳と幸福などの対立軸が微妙にからみあい、功利主義をはじめとするさまざまな立場が生まれ、富・資源の配分、個人的自由の規制、社会的秩序の維持などの問題に対処しようとしているが、それらの正義論の有効性の範囲と根拠は必ずしも明らかではなく、政治、経済、科学技術、医療などの領域で活発に論じられているところである。しかし、そうした現代の諸問題は、その基本的な形において、まさに古代ギリシアの哲学者たちが「正義」の問題として論じてきたところであった。この基本的理解のもと、本研究は、都市国家に生き、民主主義を築き上げたギリシア人にとっての「正義」に対する基本的考えを、ギリシア思想・哲学の内に探ろうとしたのである。

### 2. 研究の目的

「ギリシア哲学における正義論の理性的、感情・情動的、社会的、また宇宙的基盤」という本研究の主題を探求する場合に自ずと焦点が絞られてくるのは、自らの不正な刑死を巡るソクラテスの言動と、そこから発展したプラトンの哲学である。人間はいかに幸福に、かつ正しく生きるべきかを探求した古代ギリシア人は、ギリシアの国家宗教のように、規範それ自体が矛盾（不道徳で恣意的な神々等）を含んでいることから生じる諸問題、また、個人のモラルと全体の規範のどちらが重視されるべきか、正義がよって立つ社会的基盤はいかなるものか、家族愛や広く人間同士の共感のような感情的要因と、義務の行使のような理性的要因のどちらが優先されるべきか、そもそも倫理的判断を導く正しい理性とはいかなるものか、といった諸問題に直面し、その解決を、ミクロコスモスたる人間の理性、感情、社会、そしてマクロコスモスたる宇宙をも考慮に入れることによって試みた。

本研究は、これら理性、感情、社会、宇宙というキー概念のもと、古くは、ギリシア人

にとっての最大の教師であったホメロスから始めて、ソクラテス、プラトン等の、正義について深く考察したギリシア哲学者たちを視野の中心に置き、彼らが、正義の生を通して、幸福をどのように追求したか、という問題を探求しようとしたものである。

### 3. 研究の方法

本研究は基本的に文献学的研究である。しかし、自然と人間社会、義務と利益、理性と感情、徳と幸福、自由と必然などの対立軸の中で「正義」の問題を探求する際に手掛かりとなる古代ギリシアのテキストは膨大である。それゆえ、ギリシア哲学者のみならず、ホメロス、ヘシオドス、ヘロドトス、トゥキュディデス、弁論家などをも考察に取り込むことを試みた。

また、理性と感情の関係を考察するに際しては、最新の脳科学の成果も参考になりうる。本研究では、古代のテキスト、その2次文献の精査だけでなく、現代の脳科学、心理学の成果も参照しようとした。

本研究においてとくに焦点を当てたのは、次の問題である。

(1) 民主主義の誕生と正義の関係。これは、ソクラテスの刑死が提起する問題と密接に関わる。

(2) プロタゴラスの相対主義と、それが招きうる道徳的ニヒリズムとの対決。はたして正義の絶対的基準は存在するのか、プラトンはなぜイデア論を唱えたのか、という問題が関わってくる。

(3) また、ポリスの解体と、無動揺を重視する幸福観への変化という視点のもとに、プラトンなどの古典期哲学と、ストア派、エピクロス派を中心とするヘレニズム哲学との正義論の相違にも着目した。

(4) 正義論探求の一環として、感情と理性の関係、幸福論、友愛論、人間社会における徳の位置づけ、自然の必然性と人間の自由なども、重要な論点となった。

(5) さらに、研究代表者は、強者の利益と正義の問題を扱うプラトン『ゴルギアス』の翻訳を同時に進めた。

### 4. 研究成果

本研究を通して、研究代表者、分担者ともに、海外で研究発表を行った。

(1) 代表者が行った発表は以下のとおりである。

台湾、中国文化大学で、Greek View on Human Being as Mortal Being(2013年3月5日)。

インド、サビットリバイ・フル・ブナー大学で、Knowing and Loving. What Ancient Greeks Sought For: From Homeric View of Human Beings as the 'Mortal' (2014年11月13日)。

チリ、アルベルト・ウルタド大学で、Why Didn't Socrates Escape?, Soul and Mind in Greek Thought (2015年10月7日)。

と において、代表者は、広くギリシア思想の正義論の淵源として、ホメロスに現れる「死すべきもの」としての人間観の基本的特徴を、日本古来の人間観のそれとの異同という枠組みの中で考察し、またその成果を『人文研究』45号において、Knowing and Loving. What Ancient Greeks Sought For: From Homeric View of Human Beings as the 'Mortal' として発表した。

また では、「ソクラテスほど知恵のある者はいない」というデルポイ神託に対するソクラテスの解釈の背後には絶対的正義の具現者としての神への信仰、彼の同胞愛、広くは人間愛があることを明らかにし、その流れのもとに、脱獄を勧めるクリトンへのソクラテスの脱獄拒否が表明される『クリトン』第3部の「国法」の議論を、ソクラテス自身の議論として捉えるか、それとも、ソクラテスの真理探求とは別種の、ただ相手を説得することのみを目的とする議論とみなすか、という論争を扱い、後者の立場を批判した。その成果の一部は、『人文研究』44～48号の一連の論文となっている。

(2)他方、研究分担者は、海外で次のような研究発表を行った。

台湾、東呉大学で、Greek Concept of Happiness and Plato's Idea on Regulation of Emotion (2013年3月1日)。

台湾、中国文化大学で、Recollection Thesis as the Object of Recollection in Plato's *Meno* (2013年3月4日)。

イタリア、ピサ大学で、Recollecting, Retelling and *Melete* in Plato's *Symposium*. A New Reading of *hē synousia tokos estin* (206C5-6) (2013年7月19日)。

オーストラリア、シドニー大学で、Socrates' Last Words (2014年3月6日)。

アメリカ、カリフォルニア大学、バークレイ校で、Socrates' Last Words (2014年9月2日)。

インド、インド工科大学ボンベイ校で、Memory, Writing and Mnemonics in Ancient Greece (2014年11月10日)。

台湾、国立中正大学で、Plato's Exploration into Memory (2015年8月28日)。

チリ、アルベルト・ウルタド大学で、Plato's Wax Tablet, Soul and Mind in Greek Thought (2015年10月7日)。

オーストラリア、ニュー・サウス・ウェールズ大学で、Everlasting Inquiry in Ancient Greek Philosophy: Socrates, Plato and the Sceptics。

ブラジル、ブラジリア大学で、Socrates' Last Words (2016年7月8日)。

台湾での発表の は、ソーマティック・マーカー仮説に基づき情動制御の不可能性を主張しているダマシオの理論に対して、古代の哲学者は、それぞれに情動をコントロール

する可能性を模索したその実態を解明しようとするものであり、また は、正義に関する認識の問題を、とくにプラトンの想起説とからめて論じたものである。

また においては、ソクラテスの探求精神それ自体に着目し、共同探究を進める力となる恋(エロース)が、この世界で正義を実現する力として働くその機構を示した。

さらに 、 の一連の発表を通して、ソクラテスが友人および家族に対してもっていた compassion の感情が、理性を助け、正義推進のための力となるということを示した。

また と は、正義、感情制御、幸福、さらにはそれらに対して記憶や筆記が果たす役割を総合的に考察したものである。

そしてその方向性をさらに発展させたものが であり、正義の人ソクラテスの刑死をプラトンが記憶の上でどのように整理し、積極的な哲学意義を見出しえたかという問題を扱っている。

他方、 は、探求者としてのプラトンに着目するとともに、その流れを受け継いで探求(スケプシス)に徹したヘレニズム時代の懐疑主義者(スケプティコス)が、答えの出てこない考察のなかで、どのようにして正義の行為を成し得たか、という問題を中心に、ギリシアの伝統と中国の伝統を比較した。

以上の研究発表の成果は、International Plato Studies、35巻掲載の Recollecting, Retelling and *Melete* in Plato's *Symposium*. A New Reading of *hē synousia tokos estin* (206C5-6) など、すでに印刷物の形で広く公刊されたものもあるが、しかし公刊に向けて現在準備中のものも多い。それとは別に日本語で出した論文については、本研究成果報告書の「5. 主な発表論文等」を参照されたい。

なお研究代表者は、本研究期間を通して、プラトン『ゴルギアス』の翻訳を進めた。本作業は、早期の完成を目指して、なお継続中である。

## 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計20件)

金山 萬里子、プラトン『クリトン』の統一性について(承前) 人文研究、査読無、48号、2017、23-60

金山 弥平、Approach to Time in Ancient Greek Philosophy, Journal of the School of Letters, Nagoya University、査読有、13巻、2017、11-26

金山 弥平、The Birth of 哲學 (Tetsugaku) in Japan, Tetsugaku、査読有、1巻、2017、169-183

金山 弥平、Recollecting, Retelling and

*Melete* in Plato's *Symposium*. A New Reading of *hē synousia tokos estin* (206C5-6), *International Plato Studies*, 査読有、35 巻、2016、249-256

金山 弥平、プラトンの探求とアイデア界の知性、臨床精神病理、査読無、37 巻(2)、2016、119-123

金山 弥平、Socrates' Last Words, XI Symposium Platonicum; Plato's *Phaedo*. Papers, International Plato Society/Annablume Classica, San Paulo, 査読有、巻号無、2016、440-450

金山 萬里子、プラトン『クリトン』の統一性について、人文研究、査読無、46,47 合併号、2016、51-72

金山 弥平、懐疑(スケプシス)の射程、『思想』、査読無、1098 巻、2015、2-6

金山 弥平、Memory, Writing and Mnemonics in Ancient Greece, Proceeding of the International Symposium on Memory and Human Well Being: Interdisciplinary Perspectives, 査読無、巻号無、2015、97-104

金山 弥平、Plato's Exploration into Memory', Symposium on Memory, 査読無、巻号無、2015、計 19 頁

金山 萬里子、Knowing and Loving. What Ancient Greeks Sought For: From Homeric View of Human Beings as the 'Mortal', 人文研究、査読無、45 号、2014、1-17

金山 萬里子、ソクラテスの「人間の(人間なみの)知恵」をめぐる断章、人文研究、査読無、45 号、2014、55-74

金山 弥平、幸福とは何か? - 古代ギリシア哲学、とくにソクラテス、プラトンの視点から、中部哲学会年報、査読有、45 巻、2014、1-12

金山 萬里子、ソクラテスはなぜ逃亡しなかったのか?、人文研究、査読無、44 号、2013、27-58

金山 弥平、ソクラテスの最後の言葉、西洋古典学研究、査読有、62 巻、2013、24-38

金山 弥平、ギリシア哲学における幸福、心理学ワールド、査読有、60 巻、2013、17-20

金山 弥平、Recognition, Concept Formation and Knowledge: Preliminary Consideration for the Theory of Recollection in Plato's *Phaedo*, Journal of the School of Letters, Nagoya

University, 査読有、9 巻、2013、1-20

金山 弥平、探求のツールとしての映像と文字、名古屋大学教養教育院プロジェクトギャラリー「clas」アニュアル 2012、査読無、巻号無、2013、104-107

金山 弥平、幸福とは何か? 古代ギリシア哲学、とくにソクラテス、プラトンの視点から、中部哲学会年報、査読有、45 巻、2013、1-12

金山 萬里子、ソクラテスはなぜ訴えられたのか? 一つの試論、人文研究、査読無、43 号、2012、54-75

[学会発表](計 19 件)

金山 弥平、古代ギリシアにおける右回り時計回り、反時計回り?、シンポジウム「人間と記憶」、2017 年 1 月 21 日、名古屋大学(名古屋)

金山 弥平、Socrates' Last Words, XI SYMPOSIUM PLATONICUM; PLATO'S PHAEDO, 2016 年 7 月 8 日、ブラジリア(ブラジル)

金山 弥平、Approach to Time in Ancient Greek Philosophy, UBIAS Intercontinental Academia Nagoya Workshop (On TIME), 2016 年 3 月 10 日、名古屋大学(名古屋)

金山 弥平、Everlasting Inquiry in Ancient Greek Philosophy: Socrates, Plato and the Sceptics, In Pursuit of Wisdom: Ancient Chinese and Greek Perspectives on Cultivation, 2016 年 1 月 18 日、シドニー(オーストラリア)

金山 萬里子、Why Didn't Socrates Escape?, Soul and Mind in Greek Thought. Psychological Issues in Plato and Aristotle, 2015 年 10 月 7 日、サンティアゴ(チリ)

金山 弥平、Plato's Wax Tablet, Soul and Mind in Greek Thought. Psychological Issues in Plato and Aristotle, 2015 年 10 月 7 日、サンティアゴ(チリ)

金山 弥平、Plato's Exploration into Memory, Symposium on Memory, 2015 年 8 月 28 日、嘉義(台湾)

金山 弥平、プラトン、デモクリトス、プロタゴラス、古代哲学フォーラム、2015 年 3 月 28 日、京都大学(京都)

金山 弥平、Plato's Pursuit of Roads, A New Perspective on Plato and his Philosophical Methods, 2015 年 3 月 21 日、京都大学(京都)

金山 萬里子、Knowing and Loving. What Ancient Greeks Sought For: From Homeric View of Human Beings as the 'Mortal'、Lecture at Savitribai Phule Pune University、2014年11月13日、プネー(インド)

金山 弥平、Memory, Writing and Mnemonics in Ancient Greece、The International Symposium on Memory and Human Well Being、2014年11月10日、ムンバイ(インド)

金山 弥平、Socrates' Last Words、The Berkeley Ancient Philosophy Workshop、2014年9月2日、パークレイ(米国)

金山 弥平、Socrates' Last Words、早稲田大学現代政治経済研究所、部会：公共性の規範理論研究部会、2014年5月16日、早稲田大学(東京)

金山 弥平、Socrates' Last Words、The Classics and Ancient History Department Seminar、2014年3月6日、シドニー(オーストラリア)

金山 弥平、Recollecting, Retelling and *Melete* in Plato's *Symposium*. A New Reading of *hē synousia tokos estin* (206C5-6)、X Symposium Platonicum. The Symposium. The International Plato Society、2013年7月19日、ピサ(イタリア)

金山 萬里子、Greek View on Human Being as Mortal Beings、中希倫理学小組、中国文化大学哲学系、東呉大学哲学系、2013年3月5日、台北(台湾)

金山 弥平、Recollection Thesis as the Object of Recollection in Plato's *Meno*、中希倫理学小組、中国文化大学哲学系、東呉大学哲学系、2013年3月4日、台北(台湾)

金山 弥平、Greek Concept of Happiness and Plato's Idea on Regulation of Emotion、道與徳: Knowledge and Happiness for the Mortals、2013年3月1日、台北(台湾)

金山 弥平、幸福とは何か? 古代ギリシア哲学の視点から、中部哲学会、2012年9月29日、名古屋大学(名古屋)

[図書](計3件)

金山 弥平(訳書)、岩波書店、J. アナス・J. バーンズ『古代懐疑主義入門 判断保留の十の方式』、2015、530

金山 弥平(共著)、世界思想社、プラト

ンを学ぶ人のために(内山勝利編)、2014、296(158-177)

山田 道夫、金山 弥平、岩波書店、新版アリストテレス全集5、『天界について』、『生成と消滅について』、2013、401

[産業財産権]

出願状況(計0件)

取得状況(計0件)

[その他]

ホームページ等:無し

6. 研究組織

(1) 研究代表者

金山 万里子(KANAYAMA, Mariko)  
大阪医科大学・功労教授  
研究者番号: 10093189

(2) 研究分担者

金山 弥平(KANAYAMA, Yasuhira)  
名古屋大学・文学研究科・教授  
研究者番号: 00192542